

時事新報

第千三百八十九號

月日
出入午前五時四十分
午後五時四十分

の検査を始るに付くは明年早々各府縣より特別又傳習
與を募集し卒業の上は之と各地に検査所の検査役に充
て専ら之が豫防に從事せしむる等ありといへば數年
の後は漸次該毒撲滅の功を奏し一般の醫業に非常に収
益と増加するに至るべしといへり

其朝より米もありらず大洲警察署みて小舟にて分ち品と品と小舟にて分ちさんとされとも淤び只ざ呆然として多き所あれども此政九年以後の大水は

時事新報定價
一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金
三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇一箇月後稅一箇月金廿大錢〇一箇年金
三圓十二錢〇左三揭タル各地ニ於アハ該地賣捌所ヨリ發送紙料ニテ配定
改版但ト社ヨリ直接送致スルモノハ此限アラズ
●東京 情報機要實業社
神沼沼、原吉風、清流清水、靜岡濱川、田島、林校、大阪京都、大連、和歌山、
神戸、岡山、笠岡尾ノ道、福岡、成島、鷹島、高知、下ノ関、長崎、名古屋、岐阜、岡
崎、瀬戸、四日市、桑名、淡路、松坂、山田、仙臺、福島、二木松、白石石ノ森、函館、青
森、弘前、高柳、高崎、小諸、佐野、上田、宇都宮、肥前、八王子、千住、越谷、名古屋、杉
戸、幸手、加須、桶川、千葉、佐倉、東京、八重洲、船橋、市川
其他同地近傍配送便アハソハ同一レク通報料不申受取

一	行廿四字體	一	日限
自			
三十一行			
一行至三十行			
八九十			
錢銅			
六七八			
戰五			
錢銅			
五六七			
錢銅			
五六七			
黑五			
毛五			
頭			
五五五			
錢銅			
六七			
錢銅			
九五五			
八五五			
毛五五			
頭			

時事報

藍電の政略
去年の四月英露兩國阿富汗に事あるに當り英國ハ朝鮮

州島達より出没せしかば世人は露國が巨文島より對して濟州島を占領せるあらんと嘲せしに其後露旗の濟州島ふ離れるを見ぞ露國の舉動近頃までも其爪牙を東洋よりはモモカリモガ近頃に至り露國は朝鮮に向て永興島港即ちフザレフ港を割譲せんと申出したり、露國船隊ハ風鏡道の海岸を巡航したり、朝鮮駐劄は露國公使は朝鮮政府へ貨港の事と談おたり仰云へる風説なり此風説は獨り東洋人の臆病心に向て吹くのみあらず近來歐洲の諸新聞紙上にても亦此風説の響を聞くを以て察すれば天下衆目の視る所頃日露國ヶ朝鮮に對するの譽謗に疑惑あるもの如し我輩も兼て露國が冬時不凍の良港を東洋より得るの慾望ありと聞くものら聊か掛念の餘なき乎非ざれとも頃日歐亞の事情より通じたる或る人が一説として論ずる所と聞けば露國は今日左る計略に駆動と爲すものに非ず抑も露國の君臣は前代ヒートル大帝の遺訓を奉先づ土耳古邊を蠶食して歐洲の形勢を制するの地と爲し迄で東南亞細亞より侵入する所存なるべく是より先に屢々土耳古邊の事に手出したるものありとが近年國內不平の徒あり處無算と稱して毎度犯上抗官の舉動と爲ぞ利さへ先帝アレヤサンドロル第二世陛下を尊叙しさりしきば今上即位の初より東洋よりは内治を頑持て露西亞の國と爲り土地の廣大

なるに比して風化未だ治めからず民間殷富の實あるが爲先鐵道と敷設し殖産と興廢する等國用自かゝ多端にして頻年財政に餘裕を見されば事端を外國に開くは蓋し其好まずる所ある可し其證據には近年歐亞諸國より事務るに當り露國は手と其間に出来るを一昨年佛清の戰争の如きは實情もなく默然たりしものにして其實は外國交渉に就まきと見るに足れり又英國が巨文島を取るに當り露國若濱州島と取らんとすれば現在英國の手本もあるとされば天下故らよ諦に露國を許せるの慮もあく唯一露國に占領すると得べかりしに敢て手を下さうりしけれ亦當分境土蘿食に事な足を見る可し左れば露國が保譲國を保譲國とせんとそと云ひ或は其水喫港を占領するあらん折云ふ風説は露國の嚴格に與深く一癖ありれば

に控へ居ると望見して徒に其疑心又蓄さる暗兔なる可し、勿論何ぞの政府にても其一部分は種々の考案あるものにして露國海軍の部分杯には事功に勇む軍人習として或は朝鮮を如何せんと云へる種々の議論あり亥と申ふと雖とも其と單に議論にして露國政府が之と事實に行ふの場合までには餘程の隔りあることを將ら又露國ヶ赤輿港を取るとあるも此邊一帯の地と露國の都府セントピートルスボルク及びモスク等との間は荒野無人の境を隔て一旦戰爭の事ある露都より軍器一切の物と陸送するの便を得ざれば冬時不凍の良港も實地に臨んで其利用甚ざらざるを得ず要するに露國の軍動に就き彼れ是れと說と爲し又聯軍冷す者あるは所謂風聲鶴唳は類ならん云々此說一應其もなるが如くな色々も漫に安心を可らざる凡て政治家の政畧は彼の観睨みの眼の如く傍より觀て彼方を睨み見るうと思へば案外よも此方と見詰め居るが如さとあり如き人傑あり且つ其政治は獨裁として果斷速決の一派にては立憲政治國みて事を國會議院の相談を要する者比非ざるがゆゑに其朝鮮と對し將た東洋全体に對する政略上に如何ある豹變を見る可れや我輩豫先を端倪す可らず今暫く世間の説を擧げて議者の判断を請はんと欲するなり

雜報

○學習院の改革　比頃日全く整頓したる由にて學則生定の後は専々會計庶務の事を整革し成る丈け雜費を省きて良師と聘し大に教員の數を増えて都合四十餘名となりし佛人フーラ氏米人モア氏杯も今度新たに招請せよ

を去る廿日より授業を始めしが目下生徒の數は四百二十餘名にて之れを第一高等中學校内の校舎と舊學習院焼け残りの跡とに分ち双方にて教授するに何角不便なクタされを行くくは虎ノ門内ある工科大學の跡に引移る都合みて既に其準備中なりといふ

○微粒子毒の豫防 我農務局ダ日本研究所より微粒子毒の存在を發見して其豫防の事に着手したるは實に三年前のことにして爾來此說を醫藥地方一般に告知すると同事に山下御門内ふ齋病試驗所を設置し専ら之が

防撲滅の方法を研究し一方々は蘆葉地方より該毒檢法傳習生と募集し已に昨年より本年に掛けて其傳習授けさるは都合百廿餘名よりて福島縣十六名栃木縣五名、埼玉縣十三名、岐阜石川長野等各十名内外其他府縣より各一二名位宛なる其中ふは未熟の者も甚かる由なれども兎に角此人々が歸郷の後は或て傳生を募りて其學びたる處を傳授するなり或は各地を回して検査するあり遂て一般人にも迄々該毒の最もべきを知らし先隨て豫防の大切ある事を悟らしめるものゝ如く既ニ諸府縣より右試験所の手を經て顯鏡を注文せるもの多く是迄同所より送出たる分のにて長野群馬福島埼玉等の諸縣へ二三十個乃至四五個程あり其他の府縣よりも五六乃至十二三箇宛の注文りといふ又農商務省にて去月中種植検査規則を布し明二十年より各府縣下に種種試験所を設置し種

を珍重するに至りるより佛國にては早くも尾張の七
寶焼其他の陶器と模造し歐米市場に賣出す由に聞及び
之が又近頃獨逸のハムホルクに於ては日本浴衣地染模
様の風韻あるを愛し之を寝衣あとふ添貰くとが流行す
る由にて東京の或商人は試に右添形地若干を同地へ輸
出せんと其準備中ありといふ

○甲斐絹染色の改良 山梨縣下都留郡は甲斐絹の產出
最も多所に於て從前は一ヶ年七八十萬圓に收穫あり
しも其染方に稍々惡弊と生じたるが爲め一時は非常不
聲價を墮しるに付昨年來頻に染色改良の計畫と爲し
先般東京職工學校卒業生二名と雇入れ直に改良染に着手
夫迄たるに兼て一般の織屋が待設け居たるとあれば開
業以來注文引きも切らむ中々手廻り算る程の繁昌あり
と云ふ

○牛疫と馬疫 愛智縣額田櫛豆碧海三郡内よては急症
馬病流行し斃死四十餘頭及び目下其病症取調中又和
歌山縣名草郡にては牛疫發生し一頭は斃れ一頭は撲殺
しよりと何れも其筋へ電報ありし由又熊本縣下飽田託
磨上益城阿蘇合志等の數郡内馬疫流行することは嘗て聞
及びしが同縣獸醫講習所教員は特に該流行地に出張し
實況を視察して環防消毒等を指示したるを以て未だ撲
滅には至らざれども追々減退して遠うらず消滅をべし
といふ該病發生の源因は空氣に流通悪しき處に繋ぎ置
き加之平生飼養する處の青草も不良の水分と含養せる
もの多きゆ因るものなれど多くは特發なりと云へり又
同縣下にて初發より今日まで該病に罹りたる總數ハ四
十四頭にして内牡馬七頭牝馬三十七頭又右の中既小繁
れたるもの四頭ありと此程其筋へ報告ありしよし

○愛媛縣下暴雨に景況 本月十四日付松山通信員より
の報知より去る十日夜の暴雨は取敢へず電報にて通知せし
が其後當地及び縣下各地に景況を探聞せる
に先づ當松山中にて倒家は五六軒に過ぎず歿死人は
一人もあし左れども屋根瓦を吹飛さと壁を吹抜れたる
は毎戸二三十枚の甚傷せし人も中々多數あり坂山の樹木
は十分一位吹折れさるあらん又近村にては家倒れ人死
せし處少くからず當市街みても同夜ハ一人として安眠
せるものなく其物凄きと云はん方なかりし縣下各地
中暴雨は最も甚しかりしを上浮穴郡とそ同地にては今
十四日までに取調のつきたる倒家三百五十六戸あり半
倒は全郡皆然らざるあく完至ある家屋は一軒もなき身
なり又た岡郡の内にて尤も甚しきは二名村あり同村は
僅か百數十戸にて一村と成せるものなるに其内倒家も
十七戸死傷二十三人歿死及び流失したる牛馬七頭あり
又風は左のと強がらざりとも暴雨の甚しかりしは喜多
郡あり同郡大洲市街にては肱川溝水して是まで曾て水
と被りたるとあき高燥の地までも其害と被ふり各戸荷
物あとを取付んと混雜する間に水量俄かに加はり傳
か三十分間をも経過せざるに疊より数尺の上まを漫
れし程あれば極めて大切の品を除く外は其儘として漬
し翌曉より雨も稍く小休みとなり水量も大ひ漲がつゝ
十一日の午前十二時頃と覺しく此時は殆んど二階ヒタ
は市民は茲に始めて警堵の思ひと爲せり如斯有様なれ
ば市民は茲に始めて警堵の思ひと爲せり如斯有様なれ

●福島通信（九月）
か如く復本遞信大
三丁目浅草屋と旅
松葉館に招き饗應
四時當地松葉館に
書記官の案内にて
り又同夜は各郡長
る人々を大臣の旅
臨席し席上我國の
志者の意見を問ひ
明に出發せり山縣
ハ矢張り松葉館より
局よて諸調表を一
所へも臨みたり此
於て縣下官民が知
も同席に臨みたり
手を盡して飾り立
揚る杯雨天より拘
翌日出立せしグ三
長等孰れも送迎を
見送りて當地まで
共進會 伊達郡生
は八月廿日に開迄
八日閉會式執行の
にて本年新築玄の
ものあり三式其
招き又折よく開會
會にて一等賞を掲
(前)上小國村佐藤
氏安達郡二本松の
行の署にて有識者
校と爲す積りに存
築成就したるが故
派あり右落成式は
官各課長郡長其他
同日ハ晝夜數十本
事新報二千五百七
高 右の鶴向堂(九
枚燐五百枚輸入貿
額賣九十三枚今日
日々百七十一枚燐
三十一枚其他燐
○鶴鳥通信(九
東南の風吹荒を司
九時頃より暴雨)